

社団法人日本腎臓学会
平成 24 年度定例総会
議事録

開催日時：平成 24 年 6 月 1 日(金)13：00～14：00

開催場所：パシフィコ横浜 メインホール

議 事

・社団法人日本腎臓学会理事長・第 53 回学術総会長 榎野博史 挨拶

・平成 24 年度第 55 回学術総会長 富田公夫 挨拶

・総会成立の確認

・議事録署名人選出

1. 平成 23 年度事業報告承認の件

・事業・庶務報告

・各委員会報告

「一般社団法人移行に伴う定款変更の骨子承認の件」

2. 平成 23 年度収支決算承認の件

3. 平成 23 年度業務・会計監査報告の件

4. 平成 24 年度事業計画案承認の件

5. 平成 24 年度収支予算案承認の件

6. 名誉会員・功労会員候補者承認の件

7. 新規・更新学術評議員候補者承認の件

8. 評議員候補者承認の件

9. 理事候補者承認の件

10. 監事候補者承認の件

11. 平成 28 年度(第 59 回)学術総会長承認の件

12. 平成 27 年度(第 45 回)東・西部学術大会長承認の件

13. 一般社団法人への移行に伴う定款改定承認の件

14. その他

・平成 25 年度第 56 回学術総会長 富野康日己 挨拶

・平成 26 年度第 57 回学術総会長 渡辺 毅 挨拶

・名誉会員証授与

・第 2 回上田賞授与

・優秀論文賞・ベストサイテーション賞授与

・大島賞授与(受賞講演は総会終了後 14：00～ メインホール)

・理事長挨拶

榎野博史理事長から開会の挨拶に続き、これまでの学会員の協力に対する謝辞があった。また、①一般社団法人化、②CKD に係る、世界に開かれた腎臓学会の展開、地域における活動の活性化、FROM-J の更新、CKD の重症度分類の改訂に伴う診療ガイド改訂作業、③腎臓学会のグローバル化、④明日を担う人材の育成として、専門医や臨床研修のためのセミナーの活発化や基礎研究の基盤強化に係る基礎研究の支援プログラムの導入、⑤メタボ検診の見直しに伴う血清クレアチンの導入に係る厚労省への説明等いずれも順調に進んでいることの報告ののち議事に入った。

・学術総会長挨拶

富田公夫学術総会長から開会の挨拶と学会員の協力により開催できたことの謝辞があった。

・総会成立の確認

榎野博史理事長から、現在の正会員数は9,120名で、本日の出席者数は226名、委任状出席者数が6,136名で、合計6,362名、69.8%の出席があり、定足数を満たし総会が成立している旨の確認があった。

・議長並びに議事録署名人の選出

出席正会員により、本総会の議長に榎野博史理事長が互選された。ついで、議事録署名人に議長の榎野博史理事長と総会出席者の富野康日己理事、渡辺 毅理事が選任された。

議事 1-1. 事業概要並びに庶務報告

守山敏樹幹事長から、平成23年度にご逝去された会員の報告があり黙祷を行ったあと、平成23年度に実施した事業として学術総会・東西部大会、出版関係、腎疾患に関する調査・検討、腎臓病対策についての普及・啓発・後援、国際交流、褒賞および研究業績の顕彰などについて概要の報告があった。

つづいて、平成24年3月31日現在の会員動向が報告された。正会員9,120名、名誉会員59名の合計9,179名、団体会員28、賛助会員44の合計72団体である。また、専門科別および都道府県別の会員数、評議員数、学術評議員数の報告があった。

1-2. 編集委員会

木村健二郎委員長から編集委員会の報告があった。

- 1) 「日本腎臓学会誌(JJN)」 「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」 「CEN Case Reports」の投稿・査読・掲載状況の件

CENの投稿総数は349編と増加しており、採択率は41.3%であった。JJNは減少しており、22編の投稿であった。

- 2) 2011年優秀論文賞選考結果の件

平成23年3月22日に開催した第2回編集委員会において、下記3編の優秀論文賞2編のベストサイテーション賞を選出した旨の説明があり、これを承認した。

- ・ CEN Original：内藤省太郎(東京医科歯科大学医学部附属病院腎臓内科)
 - ・ JJN 原著：亀井宏一(国立成育医療研究センター腎臓リウマチ膠原病科)
 - ・ 症例報告：原 将之(近江八幡市立総合医療センター腎臓内科)
- ベストサイテーション賞
- ・ Review Article：石橋賢一(明治薬科大学病態生理学教室)
 - ・ Original Article：上原吾郎(東海大学医学部腎内分泌代謝内科)

- 3) COI表示の必須項目化と自己申告の件

4月よりCOIの表記を必須項目とすることとし、その研究に対して利益相反の有無を表記し、有の場合は自己申告書を提出することとした。

- 4) CEN 査読カテゴリー修正案の件
- 5) 論文審査過程での問題と取り決めの件
- 6) CEN・CEN Case reports・JJN 出版社見積比較の件

1-3. 学会あり方委員会

渡辺 毅委員長から学会あり方委員会の報告および提案があった。

- 1) 新名誉会員候補者推薦の件(承認事項) 議題-6

新名誉会員候補者として、菊池健次郎功労会員が推薦され、承認された。

- 2) 新功労会員候補者推薦の件(承認事項) 議題-6

新功労会員候補者として、安藤明利以下22名が推薦され、承認された。

- 3) 更新学術評議員選考の件(承認事項) 議題-7

更新学術評議員候補者として明石好弘以下61名の推薦があり、承認された。

- 4) 新規学術評議員候補者選考の件(承認事項) 議題-7

新規学術評議員候補者として池上直喜以下31名が推薦され、承認された。

- 5) 評議員候補者(更新・新規)推薦の件(承認事項) 議題-8

評議員継続候補者として秋澤忠男以下169名および新規候補者として飯島一誠以下17名、計186名が推薦さ

れ、承認された。

6) 理事候補者推薦の件(承認事項)議題-9

榎野博史理事長から平成 24 年度理事候補者として下記 20 名の推薦があり承認された。

五十嵐 隆, 井関 邦敏, 伊藤 貞嘉, 今井 裕一, 内田 俊也, 大野 岩男
香美 祥二, 柏原 直樹, 河原 克雅, 木村健二郎, 草野 英二, 高橋 公太
富野康日己, 長田 道夫, 成田 一衛, 堀江 重郎, 松尾 清一, 武曾 恵理
山縣 邦弘, 横山 仁

7) 監事候補者推薦の件(承認事項)議題-10

監事候補者として, 山田 明現監事, 榎野博史現理事長および渡辺 毅現理事の推薦があり全会一致で承認された。

8) 第 2 回日本腎臓学会上田賞候補者推薦の件

第 2 回日本腎臓学会上田賞を下記 5 名の名誉会員にお贈りすることとした。

石川兵衛 名誉会員 1926 年 05 月 08 日生 85 歳
小出 輝 名誉会員 1929 年 02 月 16 日生 83 歳
太田善介 名誉会員 1930 年 04 月 25 日生 82 歳
酒井 紀 名誉会員 1931 年 09 月 30 日生 80 歳
長澤俊彦 名誉会員 1931 年 11 月 28 日生 80 歳

9) 一般社団法人への移行に伴う定款改訂の件(審議事項)議題-13

一般社団法人への移行に伴う定款改定案を, 「日腎誌 Vol. 54No1(1-48), 2012」および本学会ホームページに掲載(平成 24 年 1 月 26 日)し, 学会員に広く意見を求めたところ, 特段の意見はなかった。なお, 現在の評議員, 学術評議員の合計数が 600 名を超えており余裕を持った対応を可能にするため, 定款改定案第 38 条の「この法人に, 400 名以上 600 名以内の評議員を置く」を「この法人に, 500 名以上 1,000 名以内の評議員を置く」に修正することが提案され, 審議の結果承認された。

なお, 申請にあたり一部字句等の修正を求められた場合は理事会に一任願いたい旨説明があり, 了承された。

10) 腎臓病療養指導師制度 WG 委員に関する件

腎臓病療養指導師制度 WG を設置した。委員は以下のとおりである。

委員長: 要 伸也

委員: 宇都宮保典, 門川俊明, 旭 浩一, 安田 隆, 川田典孝

斎藤知栄, 長谷川みどり

オブザーバー: 渡辺 毅, 守山敏樹

11) その他

平成 17 年度から実施している「日本腎臓学会・バクスター奨学プログラム」について, 諸般の事情により平成 24 年度は「日本腎臓学会奨学プログラム」に改称して継続することとした。

1-4. 専門医制度委員会

高橋公太委員長から専門医制度委員会の報告があった。

1) 平成 24 年第 20 回腎臓専門医試験(合否判定)の件(報告事項)

今回の受験者数は 226 名で, 合格者は 218 名。不合格者は内科 7 名, 小児科 0 名, 泌尿器科 1 名の計 8 名, 合格率は 96.4 %であった。

また, 今回の専門医試験において, 2 名の受験者が症例評価で不合格となったことから, 今後, 受験者および教育責任者に対し, 次の 5 項目について特に留意されるようお願いした。

- (1) 経験症例として提出するものは, 単に入院時の病歴要約を転記(コピー)するだけでは不十分であること
- (2) 入院中の検査で退院後に得られた結果も含め, 全体として 1 症例を経験したことがわかる内容で記載すること
- (3) 考察に関しては, 単なる感想ではなく, 診断と治療に至った根拠を適切な文献(PubMed あるいは医学中央雑誌(商業雑誌を除く))を引用してまとめること
- (4) 入院後の経過および考察に関しては, フォーマットの枠内の 70 %以上を使用して記載すること。長くな

る場合は、枠内に収まるようにフォントを調節すること

(5) 教育責任者(又はそれに準ずる責任者)は、受験者の症例を十分チェックし、改訂したものに自筆署名、捺印をすること

2) 平成 24 年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新の件(報告事項)

平成 24 年度腎臓専門医、指導医、研修施設の新規認定、更新について下記の報告があった。

	新規	更新	総数
腎臓専門医	218 名	475 名	693 名
指導医	85 名	108 名	193 名
研修施設	31 施設	53 施設	84 施設

3) 学会が承認する研究会の件(報告事項)

学会が承認する研究会として 2 研究会を認定した。

日本小児 PD・HD 研究会、茨城腎研究会

4) 第 21 回腎臓専門医試験問題作成と問題作成者への単位付与の件(報告事項)

第 20 回より専門医全員に依頼することとなり、今回も作成を依頼する。

なお、問題を作成した専門医には 1 問作成につき 2 単位、2 問作成 4 単位を上限とし付与することとした。

5) 臨床研修医のための腎臓セミナーの報告および開催予定の件(報告事項)

平成 24 年 8 月 4~5 日(土・日)、新霞ヶ関ビル灘尾ホールにて第 15 回臨床研修医のための腎臓セミナーを開催する。なお、世話人は自治医科大学腎臓内科の草野英二先生である。

6) 腎臓専門医受験のためのセミナー開催の件(報告事項)

平成 23 年 6 月 3 日(日)、パシフィコ横浜 会議センターにおいて腎臓専門医受験のためのセミナー開催を開催する。

1-5. 渉外委員会

富野康日己委員長から渉外委員会の報告があった。

1) 医事委員会の件(報告事項)

(1) 平成 24 年度の診療報酬の改定では、内保連経由で「生体検査料(D286 肝及び腎のクリアランステスト)」のイヌリンクリアランス検査に限り 1040 点の増点を提案していたのに対し、「D286-2 イヌリンクリアランス測定」が新設され、1280 点の増点となった。また、全国腎臓病協議会経由で提案していた慢性腎臓病に対するチーム医療による医学管理への加算については、HbA1c 6.1%以上(経口糖尿病治療薬、インスリン治療者)で腎症 2 期(微量アルブミン尿以上)以上の糖尿病性腎症患者に対するチーム医療をキーワードに、糖尿病透析予防指導(糖尿病性腎症 2 期以上)として 350 点が新設された。
「尿中マイクロアルブミン検査」については、認められなかった。

2) 国際交流委員会の件(報告事項)

・ Asian Integrated Nephrology Forum(AINF)企画部会(富野康日己委員長)

(1) CME 活動報告

平成 23 年度は 11 月に角田隆俊先生(東海大学)がインドネシア ジャカルタで、2 月に富野康日己先生(順天堂大学)がベトナム ハノイにて講演を行った。

(2) 日中韓腎カンファランス

平成 24 年 4 月 21 日に中国 上海において「Dialysis」をテーマに開催された。3 カ国から約 200 名が参加した。

第 6 回は平成 25 年 3 月 23 日にソウルで開催予定で、テーマは「CKD and its associated complications」である。

・ AFCKDI(Asian Forum of CKD Initiative)小委員会(塚本雄介委員長)

第 5 回総会は、平成 23 年 3 月 18-19 日に中国広州市で中国腎臓学会との共催で開催された。第 6 回総会は、平成 24 年 2 月 24 日-25 日にインドチャンディガール市でインド腎臓学会北部部会総会との共催で開催された。

第 7 回総会は、平成 25 年 8 月にタイ バンコクで開催予定である。

第 8 回総会は、平成 26 年に東京でアジア太平洋腎臓学会総会と併設して富野康日己大会長のもと開催の予定である。

- ・ APSN 関連, APCN2014 準備委員会(富野康日己委員長)
平成 26 年 5 月に東京で開催される。
- ・ ISN/JSN 連携強化委員会(南学正臣委員長)
(1) WCN2011 において東日本大震災支援のための募金活動を行い、日本腎臓財団に寄付を行った。
(2) 第 54 回日腎総会において「アジア国際交流の夕べ」の実行支援を行った。
第 55 回日腎総会においても「アジア国際交流の夕べ」の実行支援を継続する。
- ・ ISN 理事候補者推薦
ISN 理事改選に向け松尾清一先生(名古屋大学)、伊藤貞嘉先生(東北大学)のお二人を推薦した。
- ・ タイの洪水被害に対する支援
タイの洪水被害に対して日本透析医学会と合同で 200 万円の寄付を行った。この寄付金は製薬会社から無償提供された生理食塩水 15 万本の搬送費として使われた。
- ・ 第 55 回学術総会「第 3 回アジアの夕べ(ISN・APSN との連携)」
第 55 回学術総会「第 3 回アジア国際交流の夕べ」を ISN, APSN と連携して開催することを提案し、プログラム内容を企画した。

1-6. 企画委員会

山本 格委員長から企画委員会の報告および提案があった。

1) 腎病理診断標準化委員会の件(報告事項)

- (1) 腎臓病総合レジストリー小委員会と合同で、レジストリー活動を行った。
二次研究登録の推進、データ利用申請に対する審議、レジストリーの広報、研究公募などをおこなった。
また、腎臓病総合レジストリー小委員会とともに年度別解析を実施し CEN に報告した。
- (2) 腎生検病理アトラス「腎病理診断標準化への指針病理改訂版」の第 2 刷を発行した。
- (3) 第 7 回腎病理夏の学校が平成 23 年 8 月 20 日(土)、21 日(日)に長崎で開催され、96 名が参加した。今年度は 9 月 1 日(土)、2 日(日)に山形市(山形県立保健医療大学)で開催される。
- (4) 第 54 回学術総会では、CME、委員会報告、腎生検コンサルテーション、コンサルテーション・レビューの 4 企画を実施した。
- (5) IgG4 関連腎臓病ワーキンググループでは、IgG4 関連腎臓病(IgG4RKD)診療指針を作成し CEN, 日腎会誌に掲載した。また、診療指針ダイジェスト版を厚労省難治性疾患克服研究事業における 2 つの IgG4 関連疾患研究班との共同で作成し、全国の医療施設に配布することになった。

2) 腎移植推進委員会の件(報告事項)

腎不全治療選択の小冊子の大改訂に向けての作業を継続中である。新企画等を追加して平成 24 年度に 2012 版を発行する予定である。

先行的献腎移植登録システムの確立のため日本移植学会、日本透析医学会、日本小児科学会、日本臨床腎移植学会の 4 学会と共同で準備作業を進めた。登録基準の作成、審査用紙の作成、審査委員の依頼と決定等を行った。

3) 男女共同参画委員会の件(報告事項)

- (1) 第 53 回学術総会、第 41 回東・西大会において多数の委員会企画プログラムを開催した。第 13 回、第 14 回研修医のための腎臓セミナーにおいてシンポジウムを開催した。
- (2) HP レイアウトのリニューアルを行った。
- (3) 第 54 回学術総会、第 41 回東・西大会において、託児所の開設、相談コーナー設置、ブースの設置を行った。

4) 腎臓病に関する統合データベースの構築と公開小委員会(山本格委員長)

国内外の腎臓病に関する情報、データベースを委員(武曾恵理、堅村信介、飯島一誠、堀江重郎、成田一衛、塚本雄介、横山 仁、渡辺 毅、柏原直樹、前田土郎、宮崎真理子)が収集し、ウェブサイトを構築し、腎臓学会ホームページ上に掲載することを目指す。平成 24 年度上期の完成を目指して準備中である。

5) 尿中バイオマーカーのパネル化に関する小委員会の件(報告事項)

各大学の倫理委員会の承認に困難性があるため、近年の国内外の「包括同意に基づいた検体収集、利用」の一般化を広報していくことが決定した。また、現在、何らかの目的で尿を収集している研究者にも協力いただき尿バンキングを推進していく。

6) 若手腎臓学研究者育成プログラムの件(報告事項)

若手医師、研究者に対して腎臓学基礎研究に接する機会を提供し、若手研究者の育成と腎臓基礎研究を活性化するために開始されたプログラムであり、平成 23 年度は 3 件の応募があったが、基礎支援プログラム小委員会において審査の結果 1 件が採択された。

1-7. 広報委員会

中尾俊之委員長から広報委員会の報告あった。

1) 広報委員会活動報告の件(報告事項)

(1) ホームページによる広報

①刷新経過報告

ホームページのナビゲーションが適切でなく(「診療ガイドラインがどこにあるかわからない」といった声が聞こえたため)、目的のページにたどりつきにくいため、メニューの統廃合をおこなった。実質的にページの追加、削除をおこなわず、階層化を明瞭化し、メニューを統廃合することで操作性をよくした。

②平成 23 年度 1 年間のアクセス数は、811,845 件(前年 570,651 件)、1 カ月平均、67,653 件(前年 46,485 件)、1 日平均、2,224 件(前年 1,563 件)であった。

③平成 23 年度の「他学会・研究会その他の広報・掲載」件数は、他学会、研究会案内 16 件、公募情報 5 件、官公省からの通知等 11 件であった。

④海外向け英文ニュースは、4 月現在#267 となった。また、アクセス数は年間 3,512 件(前年の年間 1,915 件)、1 カ月平均 292 件(前年 151 件)であった。

(2) E メールによる広報

①平成 23 年度 1 年間の広報メール配信数は、一般会員 51 通、評議員・学術評議員 54 通であった。

②メーリングリスト登録数は、一般会員 4,600 名、法人評議員 186 名、学術評議員 414 名である。

③一般会員のメーリングリスト登録数増員対策について

- ・一般会員、HP にて随時メールで受付中
- ・学会誌送付時に「E メールアドレスご登録のお願い」(年 2 回差し込み)
*今年度は 3 回差し込み(53 巻 4 号, 53 巻 7 号, 54 巻 2 号)
- ・評議員・学術評議員で功労会員になられた方は自動的に一般会員用メーリングリストに登録となる。

(3) 一般市民からの問い合わせへの対応

メールでの問い合わせについて、幹事を中心に腎臓学会の回答として対応している。原則として、個別の病氣相談などについては、主治医に尋ねるよう回答している。日本腎臓学会としての見解が必要な場合には、理事長などに、随時、相談している。

(4) 広報委員会連絡委員(キーパーソン)について

広報委員会のキーパーソンと慢性腎臓病対策協議会の地区責任者について、棲み分けが不明確との指摘があり、猪阪善隆、安田宜成両幹事で調整することとした。その結果、J-CKDI は必ずしも、腎臓学会のキーパーソンではなく、各学会や医師会、行政との連携を行う役割を担っており、腎臓学会の中での実務的な仕事は、広報委員会が委託する JSN のキーパーソンが行うことになる。ただし、最近キーパーソンの活動は必ずしも活発ではないため、今後よりキーパーソンの活動が行えるようにしていく必要がある。

1-8. 総務委員会・倫理委員会

五十嵐 隆委員長から総務委員会・倫理委員会の報告あった。

1) 総務委員会(報告事項)

総務委員会では、①外部(学術)団体からの提言に対する学会としての対応、②学会が刊行している書籍からの転載依頼、③理事長からの諮問事項に関する提言等を行っている。

平成 23 年度のガイドライン等の転載許可件数は次の通りである。

ガイドライン種別	申請件数	許諾件数			否
		改変なし	改変許容範囲	修正	
CKD 診療ガイド 2009	81	40	17	22	2
EBM に基づく CKD 診療ガイドライン	16	12	2	2	0
CKD 診療ガイド高血圧編	3	2	0	1	0
そ の 他	13	2	2	9	0
合 計	113	56	21	34	2

2) 倫理委員会(報告事項)

(1) 平成 23 年度は 5 件の申請があり、4 件を承認、1 件は諾否の判定をしないこととした。

(2) 内科系関連 14 学会 COI 指針協議会において、医学研究の利益相反(COI)に関する共通指針の検討を行っている。

1-9. 学術委員会

堀江重郎委員長から学術委員会の報告があった。

1) 「腎障害におけるヨード造影剤に関するガイドライン(案)」の査読

査読委員として学術委員会より、堀江委員長・古家委員・椿原委員を推薦し、査読を行った。(2012 年 2 月)

2) 「臨床医学教育研究における死体解剖のガイドライン(案)」に対する意見提出

日本外科学会から本ガイドラインに対する査読意見送付の依頼があった。

学術委員による査読意見をまとめ送付した。(2012 年 2 月)

ガイドライン検討委員会で検討する旨の連絡があった。

3) 「透析患者の糖尿病治療ガイドライン 2012」の査読

日本透析医学会から検討依頼があった。

学術委員及び糖尿病性腎症合同委員会委員により査読を行った。(2012 年 3 月)

4) 「初心者のための腎臓電顕図譜」の復刻版について

パワーポイントで作成し日本腎臓学会のホームページに掲載する。

日本腎臓学会への著作権委譲について、当時の編集代表および編集委員の方々の承諾を得られた。現在パワーポイント作成中。

5) 「腎疾患患者の妊娠—診療の手引き—」改訂について

成田一衛氏を委員長として、エビデンスに基づくガイドラインを作成する。

糖尿病・透析・移植・産科・小児科・周産期などのあらゆる関連学会に作成の過程から参加してもらう。

6) 「抗癌化学療法に伴う腎障害のガイドライン」作成の検討

腫瘍医からガイドライン作成の要望があった。癌治療学会、臨床腫瘍学会及び癌学会の合同で、抗癌化学療法による腎障害のエビデンスを整理し、腎障害の予防、診断、治療を AKI, CKD の概念を踏まえて腫瘍医むけに解説するガイドラインの作成を検討することとなった。

7) 学術委員会関連委員会活動状況

(1) エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン改訂委員会

2011 年 9 月 4 日ガイドライン改訂委員会コアメンバーおよびサブグループメンバーの全体会議を開催した。ガイドライン作成についての方針、予定が発表された。

現在、第 1 回目のドラフトが提出され、検討結果に基づきサブグループで修正を行っている。今後、コアメンバーやサブグループによりさらに検討を進め推敲を重ねる。

(2) 慢性腎臓病に対する食事療法基準作成委員会

平成 23 年 6 月から 3 回の委員会を開催し検討を重ねている。

CKD 診療ガイド 2012 や CKD 診療ガイドライン改訂版との整合性を図り、糖尿病性腎症合同委員会とも調整を行いながら議論を進めている。小児の食事療法基準は、小児ワーキンググループを作り、別途検討している。今総会会期中に小児ワーキンググループも参加して、第 4 回委員会を開催する。

(3) CKD 診療ガイド改訂委員会

KDIGO の CKD の定義・重症度分類変更に伴い、CKD 診療ガイド 2009 の改訂を行った。平成 23 年 6 月から 8 回の改訂委員会を開催した。査読委員による査読意見と会員各位からのパブリックコメントについて検討し、推敲を重ね「CKD 診療ガイド 2012」が完成した。

(4) 血尿診断のガイドライン改訂委員会報告

CQ を選出し、解説の執筆が完了している。Peer review ののち、学術委員会での審査に入る予定である。

(5) 非典型溶血性尿毒症症候群診断基準作成委員会

奈良県立医大のコホートでも本邦の非典型溶血性尿毒症症候群の登録は 60 名近くなり、欧米では特異的治療薬が認可され、診断基準の作成が必要と考えられ、日本小児科学会との合同で委員会が立ち上げられた。これまで開催した委員会で、欧米の診断基準、日本小児腎臓学会の病原性大腸菌による溶血性尿毒症症候群診断基準などを参考に、診断基準の作成に向けた discussion を行っている。

1-10. 慢性腎臓病対策委員会

今井圓裕委員長から慢性腎臓病対策委員会の報告があった。

1) 慢性腎臓病対策運営委員会(報告事項)

- (1) 原疾患並びに尿蛋白と GFR を使用してステージ分類する新しい CKD 重症度分類を定めた。これに合わせた紹介基準、フォローアップ基準も新たに定めた。CKD 診療ガイド 2012 で発表する。
- (2) CKD 患者の血圧の管理、貧血治療、糖尿病の管理について大幅に改定し、尿酸の管理についても追加した。
- (3) 腎代替療法のインフォームドコンセントの開始時期を定めた。

2) 疫学研究小委員会(報告事項)

- (1) GFR マーカーとしてのクレアチニンとシスタチン C の比較に関して論文を作成した(CEN)。
- (2) アジアにおける GFR 推算式作成支援のためイヌリンクリアランス実施について中国、韓国との共同研究を行い、加えて文科省科研費研究で台湾、韓国、タイ、シンガポール、インドとの共同研究を行っている。中国との共同研究であるイヌリンクリアランスと DTPA 血漿クリアランスの比較研究が論文化された(AJKD)。
- (3) 腎移植ドナーにおける推算 GFR の正確度に関する論文を作成した(CEN)。
- (4) 血清シスタチン C に基づく GFR 推算式を作成し、厚生労働科学研究費補助金腎疾患対策研究事業 CKD の早期発見・予防・治療標準化・進展阻止の報告会で報告し、論文化(投稿中)を行った。

3) 戦略研究小委員会(報告事項)

- (1) 拠点施設会議・の開催(6 月横浜, 10 月徳島・東京)
- (2) 管理栄養士に対して「生活・食事指導」講習会を開催(11 月東京参加者 48 名)
- (3) 市民公開セミナー開催(2-3 月茨城県水戸市・水郷医師会, 長崎県)
- (4) 各医師会において CKD 講演会を開催(年 1-2 回)
- (5) 各医師会において CKD 地域連携ミーティングを開催(年 1 回)
- (6) 全参加者に対して「CKD 管理ノート」の配付
- (7) 強介入群において参加者に対して管理栄養士による生活・食事指導, 「FROM-J 通信」の配付, 受診促進
- (8) 強介入群においてかかりつけ医に対して診療支援 IT システムによる腎臓専門医への紹介基準, 管理栄養士の指導内容等のフィードバックの介入
- (9) 全地区医師会, かかりつけ医, 腎臓専門医, 拠点施設へ「News letter」を送付
- (10) 研究専用ホームページによる研究概要の紹介
- (11) 栄養支援ワーキンググループ会議開催(8 月東京)
- (12) 各栄養ケアステーションにおいて CKD 地域栄養士ミーティングを開催(年 1-2 回)
- (13) 研究グループメンバーによる定例ミーティングの開催(月 2 回つくば・東京)

(14) 平成 23 年度をもって厚労省科研費による戦略研究が終了するため、今後の調査は日本腎臓学会で継続していく。総予算額は 6300 万円となり、腎臓学会からは 1840 万円を負担する。

4) 進行性腎障害小委員会(松尾清一委員長)

(1) 管理推進委員会事務局

- ①市民公開講座の開催，ホームページの立ち上げ
- ②臨床研究プロトコルの作成

(2) IgA 腎症分科会

- ①IgA 腎症の腎病理所見と予後の関連に関する前向きコホート研究(J-IGACS)
- ②IgA 腎症に対する扁桃摘出術とステロイドパルス療法の有効性に関するランダム化比較試験
- ③IgA 腎症の寛解・再燃に関する意識調査
- ④長期予後に関与する因子を明らかにするための新規後ろ向き臨床コホート研究

(3) 急速進行性糸球体腎炎分科会

- ①急速進行性糸球体腎炎の発症率および予後に関する観察研究
- ②ANCA 関連血管炎・急速進行性糸球体腎炎の寛解導入治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究(RemIT-JAV-RPGN)
- ③JKDR/JRBR 登録 RPGN 症例の臨床病理所見の解析研究
- ④MPO-ANCA 関連血管炎の再発抑制へのミゾリピンの有効性検討の前向き試験(MARPGN Study)
- ⑤GBM 抗体型 RPGN の疫学調査

(4) 難治性ネフローゼ症候群分科会

- ①日本ネフローゼ症候群コホート研究(JNSCS)
- ②特発性膜性腎症の抗原ホスホリパーゼ A2 受容体(PLA2R)の精製と PLA2R 抗体の ELISA の確立
- ③膜性腎症関連遺伝子の探索
- ④特発性膜性腎症に対する大量ガンマグロブリン療法(HIGHNESS)
- ⑤巣状分節性糸球体硬化症における可溶性ウロキナーゼ受容体の意義に関する研究
- ⑥LDL アフェレーシス治療研究(POLARIS)

(5) 多発性嚢胞腎分科会

- ①ADPKD 患者さん向けパンフレット作成
- ②ADPKD の腎容積と腎機能の変化の疫学調査

(6) 疫学・疾患登録分科会

- ①高齢者腎臓病の調査研究
- ②全国疫学アンケート調査と DPC データベースの対象疾患患者数調査への応用

(7) 診療ガイドライン作成分科会

- ①ガイドラインの構成ならびに CQ 案作成

(8) 生体試料活用分科会

- ①家族性 IgA 腎症のゲノム解析

(9) 病因・病態解明分科会

- ①ポドサイトのスリット膜構成分子に注目した蛋白尿発生機序の解明
- ②IgA 糖鎖異常と糸球体病変との関連の解明を通じた新規治療法開発
- ③多発性嚢胞腎マウスを用いた線維化の分子メカニズム解明
- ④脂肪由来幹細胞を用いた RPGN の新規治療法開発

5) 検尿の効果検証委員会(報告事項)

平成 24 年度の特健健診事業の見直しに際し、わが国のエビデンスを集積して専門家の立場より対策を提言している。下記事項の検討を進めている。

- ①透析導入，心血管イベント予知における検尿の有効性の検証(尿アルブミン検査を含む)。
- ②透析導入，心血管イベント予知における血清クレアチニン(Cr)検査の必要性の検証。
- ③検尿と血清 Cr 検査の医療経費の費用対効果の検討。

- ④特定健診・保健指導のシステムの問題点洗い出しと改定案策定。
- 6) 腎臓病総合レジストリー小委員会(報告事項)
- (1) J-RBR/J-KDR には総計 129 施設が参加しており、平成 24 年 4 月 1 日現在、16,682 例の症例登録が行なわれた。
 - (2) 二次研究登録を難治性ネフローゼ症候群研究(JNSCS)、日本透析導入患者コホート研究(J-IDCS)、IgA 腎症の腎病理所見とその予後の関連に関する前向き多施設共同研究(J-IGACS)、急速進行性糸球体腎炎レジストリーの作成、発症率、再発率、副作用および予後に関する観察研究(J-RPGNCS)、糖尿病性腎症例を対象とした予後、合併症、治療に関する観察研究(JDN-CS)、多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD)、高齢者ネフローゼ症候群コホート研究の 7 研究に実施している。
 - (3) 日本透析医学会と腎臓不全総合対策委員会・合同ワーキングを継続している。日本小児腎臓病学会とデータベースの共同運用・管理について継続協議している。日本移植学会(日本臨床腎移植学会)と腎臓病(腎生検)カードの運用に関して継続協議している。
 - (4) データ管理、利用規定、細則、遵守事項、利用申請、登録施設をホームページに掲載した。
 - (5) 54 回学術総会の腎病理診断標準化委員会プログラムにおいて 2011 年統計を報告した。2007-2008 年統計および膜性腎症のまとめが CEN に掲載された。2009-10 年統計および高齢者腎臓病を Annual report として CEN・腎臓学会誌に報告予定としている。また、「進行性腎障害に関する調査研究(松尾班)」よりの 2007-2011 年統計の利用申請を許可し、1 万 4 千例の登録データに基づく疫学調査報告を実施した。
 - (6) 公募研究を行い 2 課題の申請を許可した。
- 7) 日本慢性腎臓病対策協議会(報告事項)
- (1) 下記の世界腎臓デーイベントを開催した。
 - ①平成 24 年 3 月 4 日(日)CKD 啓発講演会・東京(主催：日本慢性腎臓病対策協議会、日本腎臓財団)
 - ②平成 24 年 3 月 4 日(日)Kidney Walk・東京(主催：IKEA-J、日本慢性腎臓病対策協議会)
 - ③平成 24 年 3 月 8 日(木)CKD シンポジウム・東京(主催：厚生労働省)
 - (2) 各都道府県代表者を中心に 34 都道府県で年間 70 回の CKD 啓発イベントが開催された。
 - (3) 透析患者数減少予測に関する記者会見を実施した。(厚生労働省 記者クラブ)
- 8) 糖尿病性腎症合同委員会(報告事項)
- (1) 平成 23 年 6 月に第 33 回、12 月に第 34 回合同委員会が開催された。
 - (2) 腎症病期分類改訂について継続審議中であり、厚労省科研費研究和田班により策定された病期分類提言案を基盤に検討していく。
 - (3) 顕性腎症肥満例の食事エネルギー設定検討委員会にて指示エネルギー、たんぱく質、食塩摂取量が提案され、本委員会で協議した。
 - (4) 慢性腎臓病に対する食事療法基準作成委員会で検討されている食事摂取のエネルギー、たんぱく質、食塩、カリウム、リンなどについて報告され意見交換を行った。
 - (5) 日本糖尿病対策推進会議 WG で尿中アルブミン実態調査の報告書が作成されていることが報告された。
 - (6) 日本透析医学会「透析患者の糖尿病治療ガイドライン 2012(案)」を学術委員とともに査読した。
 - (7) CKD の重症度分類の尿アルブミン定量、尿蛋白定量の区分につき、以下のよう決定した。
 尿アルブミン正常 30 mg/gCr、微量アルブミン尿 30-299 mg/gCr、顕性アルブミン尿 300 mg/gCr 以上
 尿蛋白正常 0.15 g/gCr、軽度蛋白尿 0.15-0.5 g/gCr、高度蛋白尿 0.50 g/gCr 以上
- 9) 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン委員会(大野岩男委員長)日本医学放射線学会、日本循環器学会の 3 学会合同で腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012 を発刊した。今後、ダイジェスト版の作成、英文化を予定している。
- 10) 薬剤師関連学術団体との CKD 対策合同委員会(報告事項)
- (1) 日本慢性腎臓病対策協議会の世界腎臓デーイベント講演会において講演をおこなった。
 - (2) 日本腎と薬剤研究会、日本医療薬学会において CKD の講演会を企画し啓発した。
 - (3) CKD 診療ガイド 2012 の CKD 患者における薬物投与の注意点ならびに、巻末付録の監修を行った。
 - (4) 腎機能低下者におけるメトグルコ、プラザキサの死亡例について協議し、GFR 推算式では体表面積補正

を外すこと、低体重者ではCG式も併用してもよいことをしっかりと啓発していくこととした。メトグルコは、乳酸アシドーシス発症のリスクがあるため、GFR 45 ml/min 未満で減量など慎重投与 GFR 30 ml/min で使用しないことを推奨する。

1-11. 学術総会企画委員会

伊藤貞嘉委員長から学術総会企画委員会の報告があった。

- 1) 第54回学術総会(佐々木 成総会長)は、パシフィコ横浜において日本透析医学会と合同のJKW2011として開催され、4,990名の出席を得て無事に終了した。また、市民公開講座も各地域(武蔵野市、東京都、横須賀市、取手市、春日部市、盛岡市)において6回にわたり開催され、いずれも盛会であった。
- 2) 第55回学術総会(富田公夫総会長)のプログラム委員会は、富野康日己次期総会長が委員長、実務委員会は富田公夫総会長が委員長を担当し円滑な運営を行っている。また、過去数年にわたり毎年減額されてきた日本製薬団体連合会からの寄付金に関して、第55回学術総会では前回同額の1,500万円であった。これは、第54回学術総会の残余金の一部を繰越金として計上し、自己資金率を高めたことが評価されたものと推測される。
- 3) 第56回学術総会(富野康日己総会長)のプログラム委員会は、渡辺 毅次期総会長が委員長、実務委員会は富野康日己総会長が委員長を担当する。
- 4) 各企業からの寄付が厳しくなっている状況を鑑み、平成24年度第42回東・西部学術大会へ本学会から支給する準備金の額を、100万円から200万円に増額した。

1-12. 財務委員会

草野英二委員長から財務委員会の報告があった。

1) 平成23年度収支決算の件(承認事項)議事-2

- (1) 平成23年度より平成20年度会計基準による財務諸表に変更となっており、昨年度までの特別会計がなくなったこと、今後は公益目的事業会計として研究調査奨励事業、出版啓発事業、交流事業の3会計、収益事業として専門医制度事業、学術集会事業の2会計、それに法人会計の合計6会計で構成されることが説明された。

なお、平成23年度正味財産期末残高は約4億9千5百万である。

- (2) 平成23年度決算は、約4,280万円の黒字会計であり順調に推移している。特に学術総会を学会主導したことによる学会への納付金が大きく影響している。
- (3) 23年度収支決算のうち予算と決算の差異が著しい、①受取補助金等収入、②受取寄付金収入、③租税公課支出、④奨学金支出、⑤修繕費支出、⑥寄付金支出、⑦委託費支出について注記を加えた。
- (4) 平成23年度の会費納入状況は92.45%であり、やや例年を上回っている。
- (5) 平成24年4月11日(水)に公認会計士による監査が実施された。内部留保率は18.11%と良好であり、特に大きな指摘事項はなかった。

2) 平成23年度業務・会計監査の件(監査報告)議事-3

山田 明監事から、平成24年4月20日(金)に監査を実施し「事業および会計とも適正である」旨の報告があった。

以上の説明について、槇野博史理事長から平成23年度収支決算について意見を求めたが異論がなく、全会一致で承認された。

4. 平成23年度事業計画案の件(承認事項)議事-4

守山敏樹幹事長から平成24年度事業計画が提案され、審議の結果全会一致で承認された。

5. 平成23年度収支予算案の件(承認事項)議事-5

草野英二委員長から平成24年度収支予算案の提案があった。

- 1) 経常収益合計額435,449,000円に対して計上費用合計額475,579,444円であり、40,130,444円の赤字予算となっているが、FROM-Jの費用としての寄付金44,600,000円が含まれているためである。したがって、FROM-Jの費用を除けば前年と大きな差異はない。
- 2) 公益目的支出に該当する研究調査奨励事業、出版啓発事業、交流事業の3会計で約1億5千5百万円を計上し、平成24年度予算案の正味財産期末残高は4億5千4百万円となる。この金額が公益目的財産額となり、

今後、公益目的支出計画を作成し4年程度で支出していくことが説明された。

- 3) 東日本大震災被災者の会費免除について、平成23年度は8名の免除を実施した。なお、この8名に対しては24年度まで免除することとし、24年度に新たに申し出があった場合にも認めることとした。

以上の提案に対して異議はなく、全会一致で平成23年度収支予算は承認された。

8. 平成28年度(第59回)学術総会長の件(承認事項)議事-11

榎野博史理事長から、平成24年度第1回定例理事会において、平成28年度(第59回)学術総会長として今井裕一理事が選出された旨報告があったのち、全会一致で承認された。

9. 平成26年度第44回東・西部学術大会長候補者推薦の件(承認事項)議事-12

平成27年度第45回東部学術大会長として林 松彦氏(慶應義塾大学・内科)、および西部学術大会長として横山 仁氏(金沢医科大学・内科)が、それぞれと東西部大会幹事会から推薦され、これを承認した。

10. 閉会の辞

榎野博史理事長から、総会進行への謝辞が述べられ閉会した。

以上

11. 引き続いて、

- 1) 富野康日己第56回学術総会長から挨拶及び概略の説明があった。
- 2) 渡辺 毅第57回学術総会長から挨拶及び概略の説明があった。
- 3) タイ大洪水に伴う生理食塩液の支援については厚生労働省から評価されたこともあり、一評議員から感謝とお礼の言葉があった。
- 4) 榎野博史理事長から、下記の賞が授与された。
 - ・名誉会員証 菊池健次郎氏
 - ・上田賞 石川兵衛, 小出 輝, 太田善介, 酒井 紀, 長澤俊彦 5氏
 - ・優秀論文賞 内藤省太郎, 亀井宏一, 原 将之 3氏
 - ・ベストサイテーション賞 石橋賢一, 上原吾郎 2氏
 - ・大島賞 久米真司, 西山 成 2氏

平成24年6月1日

社団法人日本腎臓学会

議事録署名人

議長 榎野博史 ㊟

署名人 富野康日己 ㊟

署名人 渡辺 毅 ㊟